

平成 23 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

刑 法 問 題 紙

B日程

平成 23 年 2 月 27 日

16 : 00 ~ 17 : 30 (90 分)

(120 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 1 (60 点)

甲は、妻の V 子に浮気を疑われ、しばしば夫婦げんかをするようになっていた。甲には身に覚えがなく、V 子は甲に対する不信感、甲は嫉妬深い V 子への嫌悪感がつのっていた。そんなある日、深夜から早朝にかけて、再度浮気の疑惑をめぐって口論となった際、V 子が包丁で自殺の素振りを見せたので、自殺されてはと困惑する甲が V を制止するなどして、激しく争った。その場は無事に収まったが、V 子は、甲の気を引くため飛び降り自殺の素振りを見せて、室内からベランダへ走って出て行こうとしたので、甲は、V 子が本気で自殺を凶っているものと誤信し制止しようとした。その際、甲は、V 子に対する憤激や安易に自殺に走る V 子への苛立ちの感情もあって、自殺を防止するのに必要な限度を超えて、同女の両肩を両手で強く突いてその場に転倒させた。その結果、V 子は頭部を床面に強打し重傷を負った。自殺を凶る行為は刑法上違法でないことを前提として、下線部分の事実に注意しながら、甲の罪責を論ぜよ。

問題 2 (60 点)

甲は、自転車店を営んでいる者であるが、店先に展示していた自転車を盗まれた。その翌日、自転車の修理に出かけた帰りに、近くのコンビニを通り掛かったところ、コンビニ前に盗まれた自転車を発見した。そこで甲は、自分の物であるし、警察に連絡するのも面倒だと考え、持ち合わせていた工具で、A が購入して当該自転車に施した錠を壊して、自転車を自宅に持ち帰った。なお、自転車は、A が甲から盗み出し、同コンビニで買い物をするため店先に停めていたものである。他説を批判し自説を展開して、甲の罪責を論ぜよ。